



- Contents -

実施報告 小学生を対象とした国際平和学習プログラム  
みんなが使うと、みんなにやさしい「やさしい日本語」  
国際機関実務体験プログラム2024年度春期YOKE参加者紹介  
横浜市多文化共生総合相談センター「相談の現場から」

# 実施報告

## 小学生を対象とした

# 国際平和学習プログラム

### 地球規模の課題や自分にできるSDGsの行動、国際平和の実現について考えてみよう

YOKEでは、横浜市国際局からの委託により「小学生を対象とした国際平和学習プログラム」を実施いたしました。プログラムでは、YOKE職員が小学校に出向く「出前講座」と、小学生が横浜国際協力センターを訪れる「校外学習」を実施し、小学生に「国際交流」「国際協力」「多文化共生」について、スライド、ガイドブック、動画、クイズ等を通して学習する機会を提供しました。



↑「出前講座」の様子

### 「国際平和」を学ぶためのいろいろな工夫

なかでも人気が高いのは校外学習で、特に10月には横浜みなとみらいホールを会場とした「心の教育ふれあいコンサート」に参加した小学生が、コンサートの前後に横浜国際協力センターを訪れ、センター内会議室での昼食を挟んで、プログラムに参加しました。

「国際平和」という単語は児童にとって難しい響きだと思いますが、ガイドブックや動画等を通して食料問題・環境問題・都市問題など、地球規模の課題に取り組んでいる国際機関の活動が、世界の子どものためにどのように関係しているかを学んだり、クイズに答えながら、自分たちの周りにも多くいる外国人や外国につながる人たちの生活について考えることが、国際平和のための第一歩につながっていくことと考えています。

横浜市で暮らしている外国人が一番困っているのは、どんなことでしょうか？

- A 食べ物があわないこと
- B 言葉がわからないこと
- C 家がせまいこと

**横浜国際協力センター**

FAO	IFAD	ITTO	WFP
YOKE	IUC	CITYNET横浜 プロジェクトオフィス	Y-PORT

↑学習で使用しているクイズなどの資料

### SDGsがもっと身近になるように



「SDGs」は、多くの児童が見聞きしたことある様子で、更に、その言葉が何を表しているのかも説明することができる児童もたくさんいました。YOKEでは、SDGsを通して、国際平和のために何ができるかを子どもたちが考えるための「こどもSDGsガイドブック」を作っています。このガイドブックでは、子どもとしてできることを「窓から世界を見てみよう」「窓から見たことを良く考えてみよう」「自分ができる小さな行動をしてみよう」「みんなに伝えてみよう」の4つのステップを紹介しています。

会場ではサイコロを使ったゲームを通して、SDGsの目標を声に出して言ってみたり、自分が一番興味のあるSDGsの目標をガイドブックからひとつ選んで、どの目標が一番サイコロが多くおかれるのかを見てみると言うアクティビティーも行いました。参加した児童たちは、熱心にガイドブックを見ながら、SDGsを選んでいました。また、プログラムでは、横浜国際協力センター内にある、ウクライナ交流カフェ「ドゥルーズィ」や「横浜市多文化共生総合センター」も見学し、外国人スタッフ等との交流も図りました。

↑「こどもSDGsガイドブック」



### 自分ができることからやってみよう

参加した児童たちからは「色々なことが学べて、自分にできることは少しずつでもいいから行動することが大切なのがわかった」「外国人のたくさんの方が日本で言葉がしゃべることができないことが困っていると知った」、また引率した教員からは「自分たちにできることを小さなことからでも初めていこうと考える子どもたちが多く見られました。世界についてもっと知りたい！と興味をもったことで、先の学習へと繋げていくことができています」「現在、食育の学習をしているので、世界の食糧事情について知り、積極的に質問やメモをとっている姿が印象的でした」などの感想が寄せられました。

多くの児童たちが、このプログラムを通して学んだことを、周りにはいる家族や友達にも広げ、日々の生活のなかで、自分たちにできることを実践し、国際平和に貢献することを願っています。

### 2025年4月以降の「小学校出前・受入授業」 に関しては、下記までお問合せください

(公財)横浜市国際交流協会  
グローバル人材育成支援課 学校授業担当  
電話番号 222-1174

# みんなが使うと、みんなにやさしい やさしい日本語



「やさしい日本語」は「優しくて易しい言葉」です

「やさしい日本語」という言葉を聞いたことがありますか？大きな地震が起きた時、私たちは、テレビやラジオで「避難してください」と言っているのを聞くことがあります。この「避難」という言葉は、私たちの毎日の生活ではあまり使いません。そのため、外国人のみなさんの中には「避難」という言葉を知らない人が多くいます。外国人のみなさんにもわかってもらうために、私たちはどのように言うと良いのでしょうか？

「逃げてください」「ここは危ないので〇〇に行ってください」…。このように、「外国人のみなさんにわかりにくいかもしれない言葉をわかりやすく言い換える、または書き換えた言葉」を「やさしい日本語」といいます。

「やさしい日本語」で書くと、あなたが伝えたいことが多くの人にわかりやすくなります。外国人だけでなく、子ども、お年寄り、障害がある人にとってもわかりやすくなります。誰にでもわかりやすい言葉でコミュニケーションができると、わからないことや困ったことを解決しやすくなるかもしれません。「やさしい日本語」の「やさしい」には、気持ちが「優しい」と使い方が「易しい」の2つの意味が込められています。

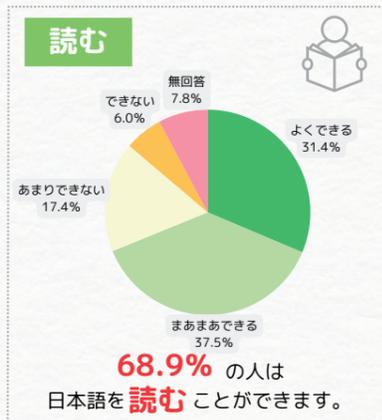
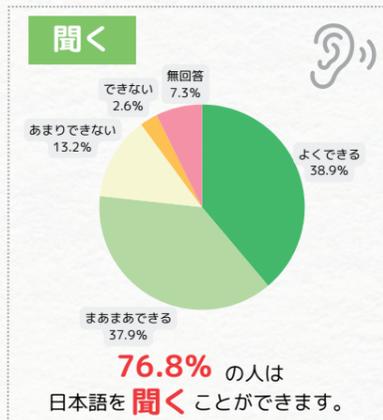
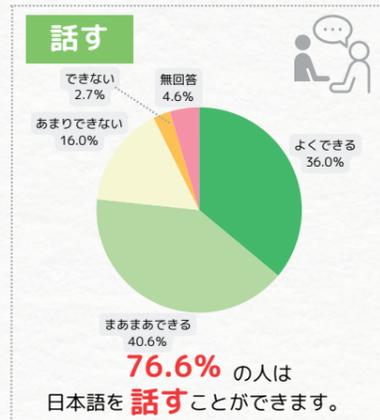
## 外国人のみなさんに、日本語で話しかけても大丈夫ですか？

外国人のみなさんに日本語で話しかけても良いか、迷う人もいるかもしれません。日本で暮らしている外国人のみなさんは、日本人と同じように毎日生活をしている人たちです。私たちが学校に通ったり、仕事をするように、外国人のみなさんも学校に通ったり、仕事をしている人が多いです。学校で過ごすこと、仕事をする、生活することは、どの場面でも日本語でのコミュニケーションが必要です。ですので、多くの外国人のみなさんは、日本語を話すこと、聞くこと、読むことができます。

どのくらい日本語がわかるかは、その人によって違います。まず、外国人のみなさんが話す日本語を聞いてから、相手に合わせて日本語を使ってみましょう。

### 横浜市在住外国人の日本語レベル

<参考>令和元年（2019）年度 外国人意識調査／横浜市 対象者：市内に居住する満20歳以上の外国人5,000人



## どのように話したり、聞いたりすると良いですか？

外国人のみなさんに「やさしい日本語」で話すときは、「です、ます」で終える丁寧語で話してください。短く、はっきり話すと外国人のみなさんにわかりやすくなります。次にあるのは、学校で保護者面談があることを外国人の保護者へ伝えるときの例です。



1回の話の中に、いろいろな情報が入っていると外国人のみなさんにとってわかりにくくなります。では、次のようにするとどうでしょうか？外国人のみなさんにとって馴染みがなさそうな言葉には説明を入れてみましょう。

### 「やさしい日本語」で言い換えた場合の例

5月20日に、保護者面談があります。保護者面談は、子どもの親と学校の先生が話すところです。保護者面談は、午後2時に始まります。午後1時57分までに、教室の入口に来てください。

### 元の案内

5月20日に保護者面談があるのですが、午後2時から始まりますので、3分前までに教室の入口に到着していただくとありがたいです。

1回話すごとに、1つの情報を伝えること（1文1義）で外国人のみなさんにとってわかりやすくなります。また、「保護者面談」は日本の学校に通った人には聞きなれた言葉で何をすることかわかります。しかし、外国から来た人は「保護者面談」という言葉も何をすることかわからないかもしれません。ですので、「この言葉は外国人のみなさんにわかるかな？」と思う言葉には、説明を入れるととてもわかりやすくなります。日本では、保護者が学校に行く機会がたくさんあります。しかし、「学校は子どもが行く場所で、保護者は学校にいかない」という国もあります。「学校の先生に呼ばれるのは、子どもが悪いことをしたときだけ」という国から来た人は、「学校に来てください」と言われて驚くかもしれません。このように、日本人の私たちの「当たり前」が外国から来た人にとっては「当たり前」ではないことが多くあります。そして、その違いに戸惑うことも少なくありません。外国人のみなさんと話すときは、「外国から来た人は、どう思うかな？」ということもいつも考えながら話すことがとても大切です。

次に、外国人のみなさんの話を聞く時、私たちはどのようにすると良いでしょうか？外国人のみなさんの中には、「日本語で話すときとても緊張します」という人がいます。私たちが慣れない外国語で話をするときは、とても緊張することでしょう。「区役所の窓口に行くときはいつも『窓口の人が優しい人です』と祈っています」という外国人の方の声もあります。外国人のみなさんが安心して話すことができるために、私たち日本人が「外国人のみなさんが話しやすい雰囲気をつくる」「ゆっくり聞く」「『あなたのペースで話して大丈夫ですよ』と声をかける」などの工夫ができると良いですね。外国人のみなさんは、あなたのことが「この人は安心して話ができる相手」であることがわかると、言いたいことを日本語で伝えることができるかもしれません。そして、話を聞く日本人も外国人のみなさんの話を理解し、その目的を叶えるための対応が可能になります。

## 「やさしい日本語」で正しい伝え方はありますか？

外国人のみなさんの背景はさまざまです。仕事のために日本に来た人、勉強のために日本に来た人、親が先に日本に来ていてその後呼び寄せられた子どもたち、日本人と一緒に仕事をしている人、同じ母語の人たちだけで仕事をしている人など…その人の背景や日本での暮らし方によってどのような日本語を使うかが違ってきます。ですので、「やさしい日本語」は「外国人のみなさんにこの言い方をすれば必ず伝わる」という言い方や正解はないと私たちは考えています。日本語を母語とする私たちが、外国人のみなさんがどのくらい日本語がわかるかを理解し、その人に合わせてコミュニケーションをとることが大切です。外国人のみなさんも日本語でコミュニケーションをとることに大変な努力をしているに違いありません。このように、「やさしい日本語」は日本人と外国人が歩み寄ることができる日本では唯一の言葉であるとも言えます。

「正解」があるとしたら、「やさしい日本語」でコミュニケーションをとった後、外国人のみなさんが「したかったことができた」「次にどのように行動すれば良いかがわかった」「わからないことがわかった」「ほっとした様子だった」「最後に笑顔になった」場合、みなさんが使った「やさしい日本語」は正解だったと言えるでしょう。

## 「やさしい日本語」を使っている人はいますか？

実は「やさしい日本語」は私たちの生活の中で多く使われています。大きな地震が起きたとき、テレビから聞こえてくる「すぐに高いところへ逃げてください！」というアナウンス、テレビの画面に表示される「逃げてください」「すぐに逃げる」は「やさしい日本語」の1つです。また、漢字に読み仮名をふる、絵や写真で説明する工夫も「やさしい日本語」です。

横浜市では、職員のみなさんが「やさしい日本語」を使う取組をしています。横浜市が開催した「やさしい日本語」の研修会では、多くの職員のみなさんが参加しました。また、美術館や図書館などみなさんの身近な施設でも「やさしい日本語」を使う取組が行われています。



## 「やさしい日本語」をもっと知りたいみなさんへ

YOKEでは、「やさしい日本語」を多くの人が知り、使うことができるとよいと思っています。「やさしい日本語」をもっと知りたい、使ってみたいみなさんは、ぜひYOKEウェブサイト内の「やさしい日本語」ページをご覧ください。 <https://www.yokeweb.com/yasashiinhongo/>



研修会への出講ご案件（有料）も対応しております。ご関心がある方は右の二次元コードよりご連絡ください。 <https://www.yokeweb.com/qa/>



「『やさしい日本語』を、多くの人に知ってもらいたい、使ってもらいたい」と思い、この記事も「やさしい日本語」を意識して作りました。ひとりでも多くの人に関心を持ってもらうことができましたら、嬉しいです。

# 国際機関実務体験プログラム

2024年度春期YOKE参加者紹介

國學院大學 観光まちづくり学部 1年  
ひきち まゆ  
引地 茉優さん



国際機関実務体験プログラムは、YOKEと横浜国際協力センターに入居している国際機関等及び市内大学が連携し、国際機関等での実務体験を通じ、国際協力や多文化共生のまちづくり等について学生に考える機会を提供する、「誰もが安心して豊かに暮らすことのできる世界」を目指す若者の育成を図るプログラムです。市内各国際機関等で45時間～100時間の実務を行います。平成16（2004）年度開始以来、200名を超える学生がこのプログラムに参加し、毎年充実した研修が展開されています。2024年度春期に、YOKEでプログラムに参加した引地さんをご紹介します！

Q1

国際機関実務体験プログラムの参加を希望した理由を教えてください。

幼い頃から海外に関心があり、日本にしながら外国の方と交流したり、外国につながる友人が周りにいる環境で育ったことで、そういった方へのサポートに興味を持ったからです。

質問に答えてもらいました！

Q3

YOKEでの経験を将来の自分の目標にどのようにつなげたいですか？

将来は、まちづくりに関わる職につきたいと考えています。YOKEで学んだ、誰一人取り残さない、誰もが同じ人間として交流を持つことができるようなサポートを行える人材になるための礎にしたいと考えております。

Q2

今回、関心を持ったYOKEの事業を教えてください。

ウクライナ避難民等支援事業  
日本語学習コーディネート事業

実務体験を通して  
感じたこと、学んだこと

YOKEで気に入っている場所は、みなさんで集まってお昼休憩を取る休憩室です。言語担当の相談員の方々とお昼を食べながら雑談できたことがとても嬉しく、楽しかったです。また、ウクライナ交流カフェ「ドゥルーヰ」の雰囲気も好きです。ウクライナの国旗の色通り、黄色と青で装飾されていたり、さまざまな写真、絵画が飾ってあってとても落ち着くとともに、大きな窓から見える横浜の景色が絶景で感動しました。そこで行われている日本語クラスに参加したときに、避難民の方と日本語ボランティアが寄り添い合うように笑顔で交流していたのを見て、このような「平和」な空間を守り、このような空間をもっと世界に増やしたいなと思いました。YOKEにはさまざまな国籍の方、背景を持つ方がいらっしゃるため、まさに国際交流の要だなと思っています。そんなYOKEで実務体験をさせていただいて、本当に嬉しく思います。ここから残り半分も人との出会い、関わりを大切にさまざまな事業に参加し、自分の視野をさらに広げていき、いずれはYOKEのような、人に寄り添える人材になりたいです。

## 横浜市多文化共生総合相談センター「相談の現場から」

「横浜市多文化共生総合相談センター」では在住外国人等への相談対応や情報提供を電話および面談により12言語で行っています。ここでは、日ごろから多くいただく問合せの内容とその回答事例について紹介いたします。

Q

コロナの時に国から借りたお金の返済通知が届きましたが、私は国民健康保険料の滞納分の支払いを続けているので経済的な余裕がありません。コロナ禍で借りたお金については手続きをすれば返済を延ばせるという話を聞きましたが、どこで手続きをすればいいのでしょうか。

A

コロナ禍で収入の減った家庭に対して、国が特例で行った「緊急小口資金等の特例貸付」を利用されたのですね。申請書に記入し必要な書類といっしょに提出すると、返済を最大12ヶ月延ばすことができます。また、住民税が非課税の世帯などは返済が免除される場合もあるので、まずはお住まいの地域の社会福祉協議会に相談してみてください。



<https://www.shakyo.or.jp/network/kenshakyo/index.html>



「横浜市多文化共生総合相談センター」

対応日時：月～金 9:00～17:00 ※土・日・祝日・12月29日～1月3日は休み  
TEL 045-222-1209 FAX 045-222-1187 E-mail t-info@yoke.or.jp  
[https://yoketagengo.com/info\\_center](https://yoketagengo.com/info_center)



講師派遣に対応しています  
(有料)

みなさんが開催する多文化共生に関する研修会や  
ワークショップの講師に  
YOKEスタッフを呼んでみませんか？

<対応できる内容>

- 横浜市に在住する外国人について
  - 在住外国人への相談対応
  - 行政機関等への通訳ボランティア派遣
  - 外国につながる子ども・若者への支援
  - 在住外国人とのコミュニケーション（やさしい日本語）
  - YOKEの事業について
- 他、ご相談ください。

<料金の目安>

- 講師1名/1時間 10,000円～

詳細は次の二次元コード  
からご確認ください



<https://www.yokeweb.com/koshihaken/>



<寄付をいただきました>

神奈川県SGGクラブ (KSGG) 様

ご寄付をいただきました。ありがとうございました。  
寄付金は、ご指定いただきました事業に充当し、有効に活用させていただきます。